■図書紹介■

江幡真一郎・高山次嘉編著

『社会性・社会認識育成の課題と方法 －社会科・生活科はどうあるべきか－』

（江幡真一郎先生・高山次嘉先生　頌寿記念論文集刊行会，1991年）

田　村　真　広*

本書は，新潟大学教育学部社会科教育研究室の教官及び卒業生によって上梓されたものである。同研究室が設置されて25周年の記念と，設置に多大な尽力をされた江幡真一郎氏の喜寿祝い，ならびに現在教授（現教育学部長）である高山次嘉氏の還暦祝いを兼ねての出版物である。これを機会に同窓会も発会したとあることからも察せられように，編者ならびに執筆者の相応の思い入れが，本書全体から伝わってくる。本書は二部構成で編集されている。

第Ⅰ部　社会性・社会認識教育の課題－その歴史と実践理論の研究－

1. 私の受けた教育　（江幡真一郎）
2. 現代社会の問題状況と社会科教育の課題　（高山次嘉）
3. 内容過多と知識形成の問題－内容の構造化から見方を育てる授業構成へ－　（大久保庄司）
4. 環境問題から「産業学習」の在り方を考える
   －農業学習と工業学習における「生産」概念の検討－　（宮薗　衛）
5. 社会認識の形成と「共感」－人間科学の方法論としての「共感」－　（槙田博之）
6. 中学生の現代認識と社会科教育の課題
   －「人類共通の問題」についての意識調査を通じて－　（金澤清司）

第Ⅱ部　社会性・社会認識教育の方法－社会科・生活科の授業の研究－

紙数の都合上，第Ⅱ部の紹介は割愛せざるを得ない。ここでは，小学校１年生から高校までの主要な単元をとりあげ，指導計画に創意を発揮している。複式学級での社会科指導に触れている点などは，地域性を反映したユニークな論であるし，コンピュータを利用しての情報活用能力の育成という時事的テーマにも触れられている。第Ⅱ部は，計24本の論文から成っている。

ところで、本書の表題に掲げられている「社会性」とは，いかなる意図を表したものであろうか。「社会性」とは，集団をつくって生活しようとする人間の根本的性質のことであろうが，社会科では通例，これを社会的関心・態度とか，広義に解して公民的資質などと把握してきた。生活科はもちろんのこと，社会科では知識・理解の育成にとどまってはならないという意図が，「社会性」という言葉を選ばせたのであろうと推察はする。しかしながら，「社会性」とはいかにも没価値的であって、各論稿での問題提起性を示し得ないうらみが残る。そこで，高山氏の論稿における表現をあえて持ち出すならば，「問題発見・提起の能力」「実践的方法能力」「協働し連帯する態度」，そして「生き方の教育」がこれに該当することがわかり，社会科教育の抱える現代的課題に対して示唆深い指摘がなされていることに，我々は気がつかされるのである。

本書の末尾には，次の出版もほのめかされている。創造的な研究の継続を，切に期待したい。

* 筑波大学大学院